

「人工林の整備状況調査」について

1 調査目的

森林の保全・再生に係る取組については長期間を必要とすることから、特に荒廃の進行が懸念される人工林について、定期的に全体的な状況を把握し、森林の保全・再生に係る事業計画の検証・見直し等に活用する。

2 調査対象

県内民有林のスギ・ヒノキ林 約 30,000ha

3 調査時期

概ね 5 年に 1 回

4 調査方法

県内の人工民有林について悉皆的な現地調査を行い、森林の整備状況を A～D の 4 ランクに分類する。

ランク A	手入れが適正にされている森林
ランク B	手入れの形跡があるが、ここ数年間整備していない森林
ランク C	長期間手入れの形跡がなく、荒廃が進んでいる森林
ランク D	荒廃化が進み、人工林として成林することが困難な森林

5 過去の調査結果の概要

(1) 調査時期

平成 8 年度～平成 14 年度（この間、3 回にわたり、県内を順次調査）

(2) 調査結果

区分	A	B	C	D	ランク外	合計
面積(ha)	4,920	6,901	15,321	1,049	2,222	30,413
割合(%)	16%	23%	51%	3%	7%	100%

手入れが必要な森林 84%

ランク外：調査対象人工林のうち、広葉樹化が進んだ森林